

奄美大島で採集された興味深いコメツキダマシ 4 種

鈴木 互

〒 211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

Notes on four false click beetles (Coleoptera: Eucnemidae)
from Amami-Ōshima Island, southwestern Japan

Wataru SUZUKI

Summary. Four species of the family Eucnemidae are reported from Amami-Ōshima Island, southwestern Japan: *Bioxylylus laticollis* Hisamatsu, 1963 is recorded since its original description. *Dyscharachthis amplicollis* (Fleutiaux, 1923), *Fornax lewisi* Fleutiaux, 1923 and *Dromaeolus marginatus* Hisamatsu, 1965 are recorded from this island for the first time. Each species is briefly described and illustrated.

奄美大島のコメツキダマシについては、これまでオオクシヒゲフトコメツキダマシ *Otto amamiensis* Nakane, ムナビロヒメフトコメツキダマシ *Bioxylylus laticollis* Hisamatsu, チャイロヒゲピロウドコメツキダマシ *Galbites tomentosus* (Montrouzier), イシハラクロコメツキダマシ *Euryptychus ishiharai* Hisamatsu, クビアカトゲバコメツキダマシ *Spinifornax oshimanus* Nakane の 5 種が知られているが (Hisamatsu, 1963, 1994; Nakane, 1987; 鈴木, 2012a, b), その数字はほぼ同規模面積の対馬の 15 種 (鈴木, 2010, 2012b) と比べると極めて少ない。これは、奄美大島のコメツキダマシ相が貧弱であるということではなく、分類の研究が立ち後れている状況にあることを示している。北方系のコメツキダマシに加え、東南アジアやミクロネシアの要素が色濃く入り込んでいる奄美大島は、種や所属の特定が難しいものも多く、これらをすみやかに解決させていくことが大きな課題となっている。

最近、筆者は野田亮氏が採集された奄美大島のコメツキダマシを検査する機会を持つことができたが、その中に、原記載以降全く記録のなかった種が 1 種、奄美大島から記録のなかった種が 3 種が含まれていたため、図示を加え簡単に特徴を紹介したい。本報告により、奄美大島のコメツキダマシは 8 種となるが、先の課題が解決されていけば、将来的はその数倍を超える種数が明らかになるのではないと思われる。

報告に先立ち、貴重な標本をご恵与くださった、久留米市の野田亮氏に厚くお礼申し上げる。なお、標本はすべて筆者が保管している。

1. ムナビロヒメフトコメツキダマシ *Bioxylylus laticollis*
Hisamatsu, 1963
(Figs. 1, 5–10)

Bioxylylus laticollis Hisamatsu, 1963: 33–34, fig. 7
(Amami-Ōshima: Hatsuno).

1♀, 鹿児島県奄美市検村湯湾, 4–6. VII. 2013, 野田亮採集。

本種は、1961 年 6 月 23 日に芝田太一氏が奄美大島八津野で採集された 1 個体の雌に基づいて Hisamatsu (1963) により命名記載された種である。その後、本種についての記録はなく、久松 (1985) の検索表に簡単な形態的記載が加えられているだけにすぎない。

今回検することのできた個体は、触角が左が 3 節以降、右が 6 節以降が欠損しており、原記載に示された触角図とは十分に比較できなかったが、特徴のある前胸背の形状やその他の形質は原記載の雌個体と一致した。本種が発見されるのは原記載以来 53 年ぶりのことであり、全体図が紹介されるのはこれが最初である。

外部形態。体長 5.3 mm。体は円筒形。色彩は黒褐色で、触角、脚、腹面はやや赤みを帯びる。頭部は正中部に沿って細い隆起線を伴うが、頭楯では消失する (Fig. 5)。表面は針で刺したような明瞭な点刻で密に被われ、光沢を有する。触角は、第 2 および第 3 節が短小であるが、合わせた長さは 4 節とほぼ同長である (Fig. 6)。前胸背板は、背面に強く膨隆し、側縁は中央部で外側に強く広がり弧状となる (Fig. 7)。表面は頭部と同様の点刻で被われるが、基部中央に平滑線をもつ (Fig. 7)。小楯板は逆三角形で、先端はまるまる。上翅は条線が浅く、間室は密に点刻されるが、前胸背板部よりは疎である。腹部腹板



Figs. 1–4. Eucnemidae spp. from Amami-Ōshima Island, southwestern Japan. 1, *Bioxylyx laticollis* Hisamatsu; 2, *Dyscharachthis amplicolis* (Fleutiaux); 3, *Fornax lewisi* Fleutiaux; 4, *Dromaeolus marginatus* Hisamatsu.

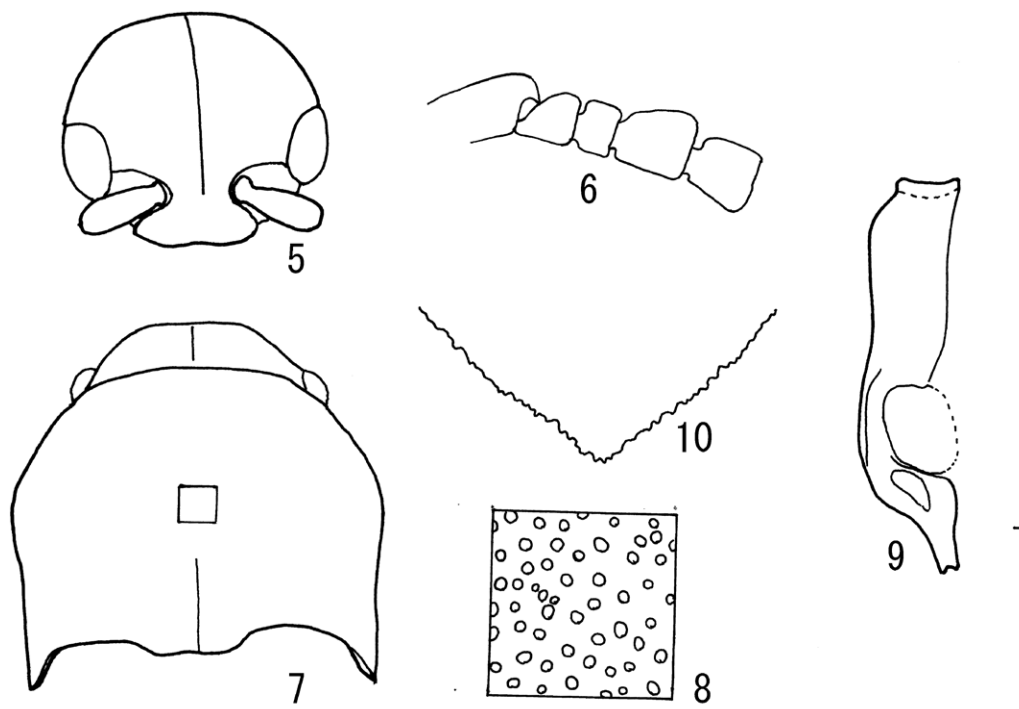
5 節は、上翅端を超え、先端部は尖る (Fig. 10).

備考. 日本産の既知のヒメフトコメツキダマシからは、上翅に斑紋を持たないことや、前胸背板の側縁中央部で外側に強く広がることで識別することができる。

2. エノキコメツキダマシ *Dyscharachthis amplicolis* (Fleutiaux, 1922)

(Fig. 4)

Galloisius amplicolis Fleutiaux, 1922: 295 (Tokio,



Figs. 5–10. *Bioxylyx laticollis* Hisamatsu. 5, head, frontal view; 6, basal 5 segments of right antenna; 7, head and pronotum, dorsal view; 8, punctures on the central portion of pronotum; 9, prosternum and prosternal process, lateral view; 10, apical margin of 5th visible abdominal sternite. Scale: 0.88 mm for 5 & 7; 0.49 mm for 6, 9–10; 0.25 mm for 10.

Singapore).

Dyscharachthis amplipollis: Muona, 1993: 49.

2 exs., 鹿児島県奄美市名瀬知名瀬, 31. VII. – 12. VIII. 2011, 地上より 1.5–4.0 m に設置した UV 蛍光灯付き FIT, 鈴木互採集.

東京およびシンガポールで得られた標本に基づいて、記載された種である。その後、各地から記録がなされ、現在では北海道、本州、四国、九州、台湾、シンガポールと広く分布することが知られている（鈴木, 2003; Muona, 2007）。奄美大島からはこれが最初の記録となる。

外部形態。体長 4.0–4.6 mm。前胸体形は、背面はやや平圧される。体は黒色で、前胸背板と上翅では規則正しく後方に向かう刺毛状の毛で被われる。頭部は前方からみると、頭楯から後縁にかけて Y 字状の明瞭な隆起線をもつ。触角は短く、外縁に隆起線を伴い、第 4～10 節は箱形に近い。前胸背は幅が広く、細かい点刻で密生される。前胸腹側板外縁には触角を受け入れる深い溝をもつ。上翅の条線は第 1 条と基部の一部を除き消失する。

本種は、日本のコメツキダマシの中では特徴の

ある種で、触角が短いこと、頭楯の Y 字状の隆起線、前胸背板の形状、規則正しく生えそろった上翅の毛により、他のコメツキダマシから識別することができる。

3. フトチャイロコメツキダマシ *Fornax lewisi* Fleutiaux, 1923

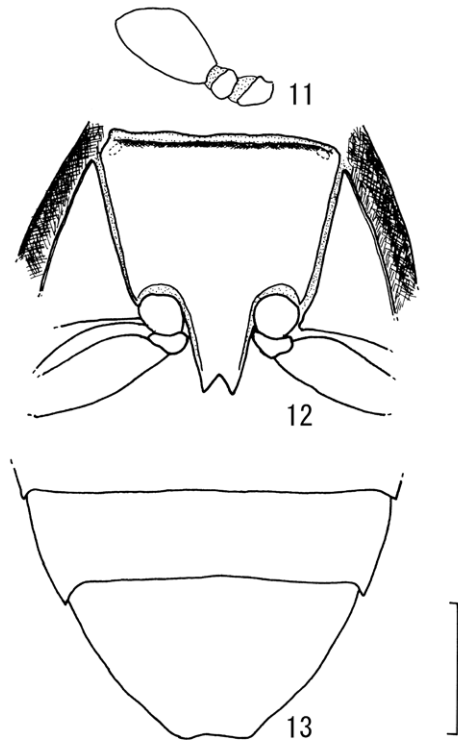
(Figs. 3, 11–13)

Fornax lewisi Fleutiaux, 1923: 297–298 (Japon).

1♀, 鹿児島県奄美市住用町神屋, 6. VII. 2014, 野田亮採集; 1♀, 宇検村湯湾, 4–6. VII. 2013, 野田亮採集.

これまでに本州、四国、九州、対馬から記録があったが（鈴木, 2010）、奄美大島からの記録はなかった。

外部形態。体長 8.5–10.5 mm。体は長楕円形で幅広く、最大幅の約 3 倍。色彩は黒褐色で、付属肢は褐色。頭部と前胸背板は密に点刻され、点刻間の光沢は鈍い。小楯板は逆台形で、後角は丸まる。上翅は点刻のみによる条線をつくり、間室は毛を伴う細かい点刻で被われ、点刻間は鯪肌状で光沢を欠く。前胸腹側会合線は、狭く、基部を除き深



Figs. 11–13. *Fornax lewisi* Fleutiaux, ♀. 11, right maxillary palpus, ventral view; 12, prosternal process, ventral view; 13, 4–5th visible abdominal segments, ventral view. Scale: 0.88 mm.

い溝を形成する (Fig. 12). 前胸腹板突起先端は腹側からみるとへの字状に切れ込み, その両端は後方に突出し, 鋭く尖る (Fig. 12). 中胸腹板は中胸腹板溝の両側が強く隆起する. 腹部腹板は, 5節先端部が浅く湾入する (Fig. 13). 小顎髯第4節は大きく, 2・3節合計の約2倍 (Fig. 11).

備考. チャイロコメツキダマシ属 *Fornax* は, 日本に未記載種を含めると多くの種がいるが, 本種は, 体形が楕円形で太いことや, 色彩が黒褐色で背面の光沢を欠き, つや消し状であることで他の種との識別は容易である.

4. ミナミヒメミゾコメツキダマシ *Dromaeolus marginatus* Hisamatsu, 1965 (Fig. 2)

Dromaeolus marginatus Hisamatsu, 1965: 134–136, figs. 8–12 (C. Formosa: Tattaka; Japan: Hachijō island).

7exs., 鹿児島県奄美市住用町神屋住用ダム, 5–6. VII. 2014, ライト付 FIT, 野田亮採集.

本種は, 台湾と伊豆諸島三宅島の個体に基づいて, Hisamatsu (1965) により命名記載された種である. その後, 各地から記録がなされ, 現在は本州, 九州, 伊豆諸島 (三宅島・八丈島), 小笠原諸島, 屋久島, 琉球, 韓国, 台湾と広く分布することが知られている (久松, 1985; 佐々木ほか, 2002; 鈴木, 2014). 琉球の記録については, “琉球” としての記録があるのみで, 詳細な島名を明記した記録はこれまでなかった.

外部形態. 体長 5.5–6.5 mm. 体は細紡錘形で, 色彩は黒色～黒褐色で, 脚は赤褐色. 頭部は前縁の横隆線が完全で表面は小点刻で被われる. 前胸背板は丸味を帯びた台形状で, 表面はやや密に点刻され, 点刻間は微細な横皺を伴う. 上翅は後方に向かって先細となり, 条線は第1条を除いて不明瞭もしくは消失する. 間室は細かい点刻で被われるが, 強い光沢をもつ.

備考. 日本産の既知のヒメミゾコメツキダマシ属の種からは, 背面は黒色で強い光沢をもち, 上翅基部や会合部で赤みを帯びることがないこと, 前胸腹板突起腹面は, 両側に1本の縦隆線をもち, さらに先端近くには1本の短い縦隆線をもつことにより区別できる.

引用文献

- Hisamatsu, S., 1963. Six new species of Eucnemidae from Japan (Coleoptera). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 8(1): 26–34.
- Hisamatsu, S., 1965. Some beetles from Formosa. Special Bulletin of Lepidopterological Society of Japan, (1): 130–140.
- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛の編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42–51 (pls. 8–9). 保育社, 大阪.
- Hisamatsu, S., 1994. A new species of *Euryptychus* LeConte from Japan (Coleoptera: Eucnemidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama, 20: 151–153.
- Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica Scandinavica, Supplement, 44: 1–133, 279 figs.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae Eschscholtz, 1829. In: Löel, L. & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81–87. Apollo Books, Stenstrup.
- Nakane, T., 1987. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXXIX. Rev. social Sci., Miyazaki Sangyo Keiei University, 1: 171–177, 6 figs.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. Coleoptera コウチュウ目. 東清二監修: 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村太編, 琉球列島産昆虫目録増補改訂版, pp. 159–284. 沖縄生物学会 (沖縄).
- 鈴木 互, 2003. 北海道におけるエノキコメツキダマシの記録. 甲虫ニュース, (141): 16.
- 鈴木 互, 2010. 対馬のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (172): 11–12.
- 鈴木 互, 2012a. 日本産ピロウドコメツキダマシ属の3種について. さやばねニューシリーズ, (6): 7–12.
- 鈴木 互, 2012b. 対馬で採集されたアイヌツヤコメツキダ

マシの記録. さやばねニューシリーズ, (8): 37.
鈴木 互, 2014. 韓国初記録のコメツキダマシ3種. さやば

ねニューシリーズ, (13): 44-45.

(2016年1月18日受領, 2016年2月26日受理)

【短報】西表島, 波照間島におけるタムラハナコメツキムシの記録

タムラハナコメツキ(以下タムラ) *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974) は元来, アカアシハナコメツキ(以下アカアシ) *Displatynychus adjutor* (Candèze, 1873) の亜種として記載されたが, 大平(1999)によって独立種とされ, 現在は奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖縄島, 渡名喜島, 渡嘉敷島, 石垣島, 与那国島から分布が知られている. 筆者はこれまで記録のなかった西表島と波照間島で本種を得ているため, ここに報告する.

1 ex., 沖縄県八重山郡竹富町(西表島) 船浦, 3. IV. 1974, 有本久之採集・保管; 1♀(図1), 沖縄県八重山郡竹富町(西表島) 仲間川近隣, 14. VII. 2013, 野田亮採集, 有本保管; 1 ex., 沖縄県八重山郡竹富町波照間(波照間島) 北部地域, 10. IV. 2014, 小田中健採集, 有本保管.

本種は, タイプ産地の石垣島からはいくつかの追加記録もあるが(大平, 2011, 2013), これらの島からは記録がなかった. 野田氏によって採集された個体は灯火採集で得られたが, 本種がこれまで灯火で得られた記録は無い. また, 近縁のコハナコメツキ属 *Paracardiophorus* の種が持つような集合性(有本, 2014) はなく, 本記録と同様に単発的に得られた事例が大平である(大平, 1999). 大平(2011)では, 「ときに集団で発生する」と説明されているが, その記述がどの記録に基づくものなのか不明であり, 発生状況の詳細もわからないため, 本種の生態に関しては継続して調査が必要と思われる.

大平(1999)が本種(タムラ)を独立種とした際,



図1. タムラハナコメツキ, 雌, 全形. スケール: 2.0 mm.

アカアシの分布を本州, 粟島, 佐渡島, 伊豆諸島, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 冠島(京都府), 沖の島(高知県)とした. 小笠原諸島父島からは, アカアシ(当時は *Platynychus adjutor*) として記録があったが(Van Zwaluwenburg, 1957), 榎原・大平(2005)が父島のものはアカアシとは異なる種で, タムラにきわめて類似しているとし, 琉球列島産のタムラが侵入した可能性も示唆してはいるが, 種名の決定は行っていない. また, トカラ諸島中之島からアカアシの記録があるが(Kishii, 1999), 大平(1999)はトカラ諸島には両種とも記録が無いとしており, その後中之島の本属種について言及されたことは無い. そのため, トカラ諸島と小笠原諸島にどの種が分布するのか結論は出ていない.

末筆ながら, 貴重な標本を提供いただいた野田亮氏(福岡県久留米市)に厚くお礼申し上げます.

引用文献

- 有本晃一, 2014. 沖縄島の海浜におけるコメツキムシ科甲虫3種の記録と生息環境. さやばねニューシリーズ, (16): 38-39.
Kishii, T. 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, 42: 1-144.
榎原 寛・大平仁夫, 2005. 森林総合研究所所蔵の小笠原諸島のコメツキムシ類について. 森林総合研究所研究報告, 4(1): 53-64.
Ôhira, H. 1999. Notes on the *Displatynychus*-species (Coleoptera, Elateridae, Cardiophorinae) from Japan. Miscellaneous reports of the Hiwa Museum for Natural History, (38): 357-362, 2 pls.
大平仁夫, 2011. 栗原桂一・春江夫妻の採集品に基づくコメツキムシ類の記録(2)―石垣島・西表島―. さやばねニューシリーズ, (4): 17-19.
大平仁夫, 2013. 栗原桂一・春江夫妻の採集品に基づくコメツキムシ類の記録(4)―石垣島・西表島―. さやばねニューシリーズ, (10): 17-19.
Van Zwaluwenburg, 1957. Insect of Micronesia. Coleoptera: Elateridae. Emice P. Bishop Mus, 16(1): 1-166.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)